

1 趣旨

■関内駅周辺のまちづくり誘導

関内駅周辺地区はエリアコンセプトプラン(ブック)を策定し、市有地を活用した活性化の核となる拠点整備を誘導してきました。

当プランでは事業に参画する新たな事業者や地域が連携してソフトの取組の展開・地域連携を実施してまちの価値を高めていくこととしており、将来的には関内・関外地区全体での活性化が期待されています。

■第33回政策検討部会（令和6年4月22日）の審議

上記プランに基づき、整備完了後も地区内の事業者等が連携し、関内駅周辺地区が核となって関内・関外地区全体の価値が維持・向上していくことを目指し、以下についてご意見を伺いました。

○関内駅周辺地区におけるエリアマネジメントに関する方針（(仮称)関内駅周辺地区エリアマネジメントコンセプト（AMC））の策定

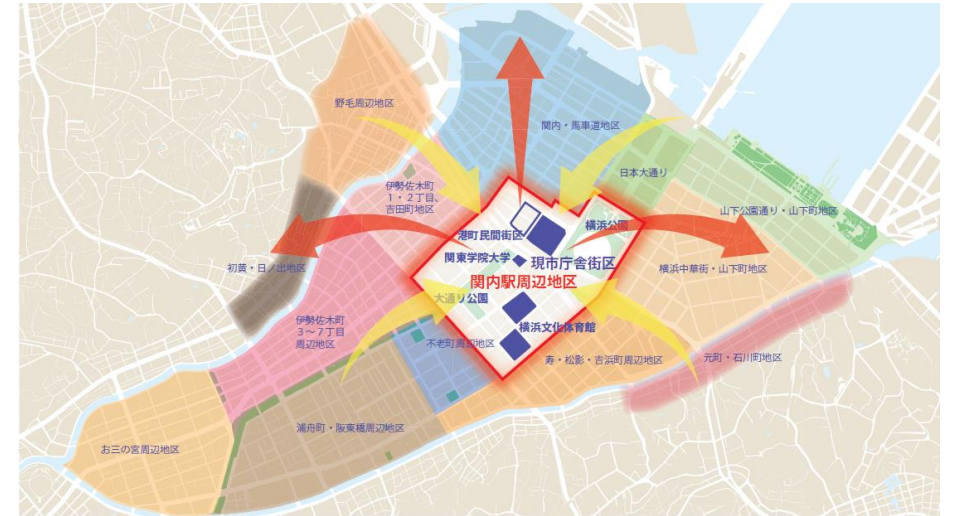
○エリアマネジメントによる景観形成と運用の検討

主に、エリアマネジメントの主体や市の役割、地域との関わりなどの進め方に関するご意見をいただき、その意見を踏まえ、引き続き検討を進めることとなりました。

■本日の報告事項

いただいたご意見を踏まえ、市が方針を定めて進めるのではなく、事業者等と対話しながら「まちの価値を高める取組」を進めていくこととしました。

なお、(仮称)AMCで検討してきた5つのエリアマネジメント実施方針案は、事業者との対話において、市の基本的な考え方として活用していきます。

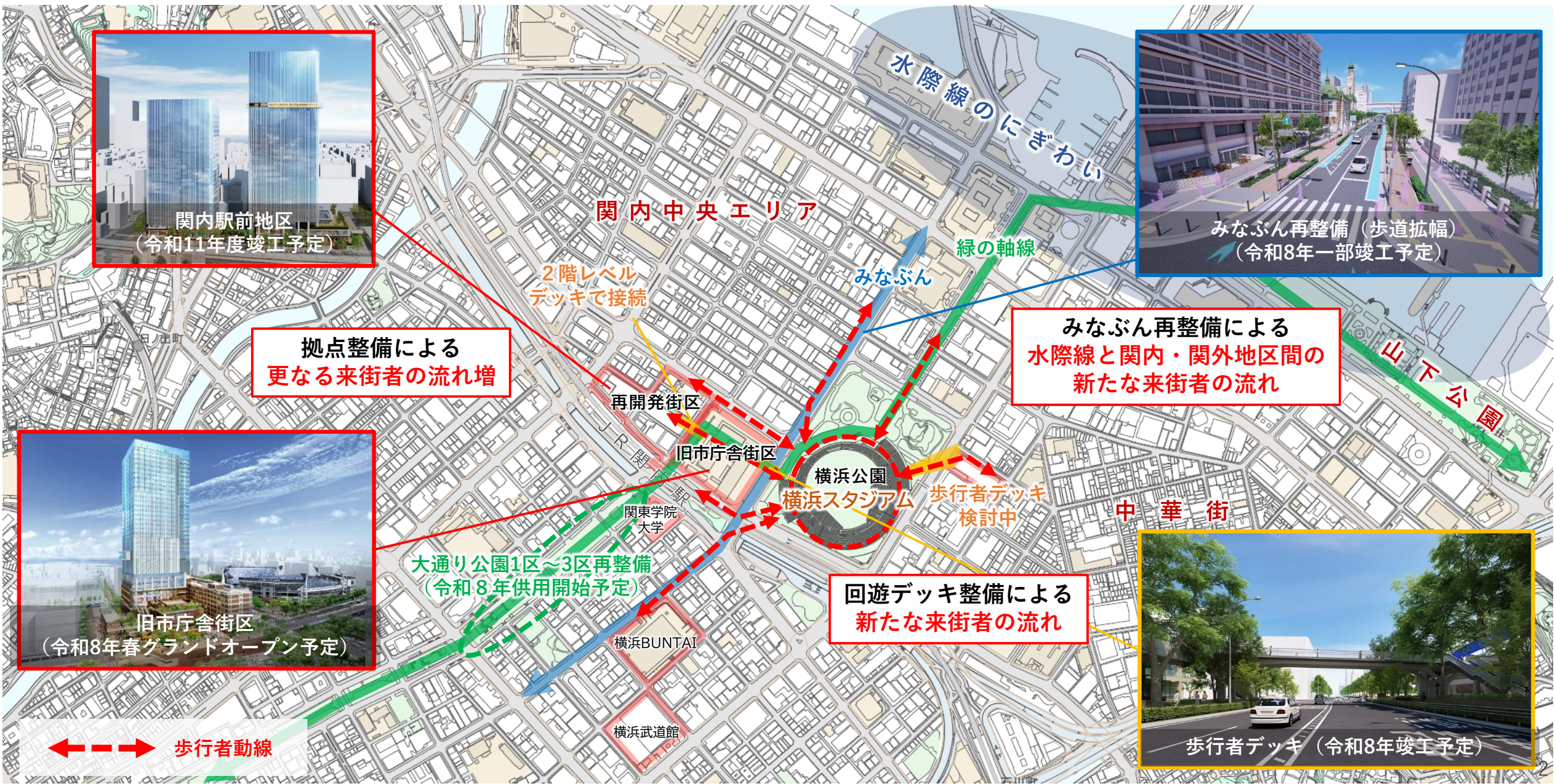


▲関内駅周辺地区エリアコンセプトプラン(P.16)より
＜関内駅周辺地区のマネジメントと、関内・関外地区内の他地区と連携した活性化イメージ＞



▲(仮称)AMCの中で検討してきた＜エリアマネジメント実施方針案＞

■ 拠点整備（実施主体：市・民間）、回遊性を高める基盤整備（実施主体：市）



2 関内駅周辺のこれまでの取組

■ にぎわい創出・エリア活性化に向けた取組（KAN-KAN SQUARE PROJECT）

関内側と関外側（＝KAN-KAN）を、一体の空間（＝SQUARE）とし、生まれ変わっていく関内駅周辺地区の魅力を高め、にぎわいを創出することを目的としたプロジェクト。令和4年度から関内駅周辺地区の開発事業者等による実行委員会を年度ごとに組成し、公共空間を活用しながら各事業者が連携した取組を推進。

構成員

◎株式会社ディー・エヌ・エー（DeNA）
株式会社横浜スタジアム（YS）
三井不動産株式会社（旧市庁舎街区代表）
三菱地所株式会社（民間街区事業協力者代表）
株式会社電通
関東学院大学
（公財）横浜市スポーツ協会
（一社）日本大通りエリアマネジメント協議会
※◎実行委員長 ○事務局



BALL PARK FANTASIA（令和2年～）

主催：DeNA・横浜スタジアム

横浜スタジアムや横浜公園で親子連れが楽しめる
多彩なアクティビティを展開



まちあそび人生ゲームin関内（令和5年12月）

主催：旧市庁舎街区コンソーシアム

関内・関外の飲食店や施設をボードゲームの「マス」に
見立て、まちの魅力を発見するまち歩きイベント



関キャンfes×UNITE音楽祭（令和6年11月）

主催：関東学院大学・電通

関東学院大学の学園祭とBUNTAIの音楽フェスを
同日開催し、大通り公園でステージイベントや
飲食の提供を連携して実施

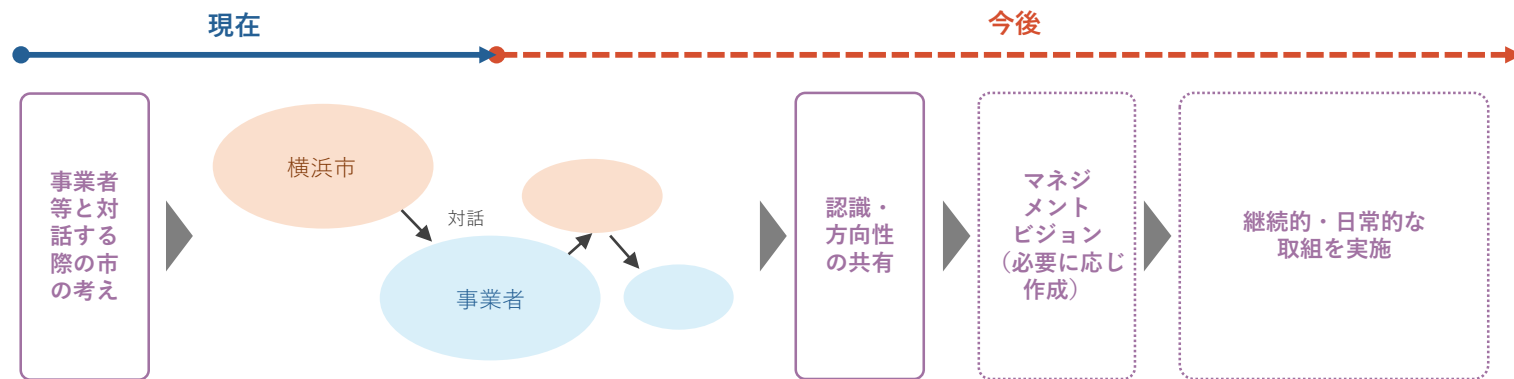
■ 事業者間の連携に向けた勉強会・ワークショップの実施

事業者間の連携に向け、令和4年度から関内駅周辺地区の開発事業等と横浜市で、講師を呼んだ勉強会や将来的な連携体制について意見交換を行うワークショップを実施。

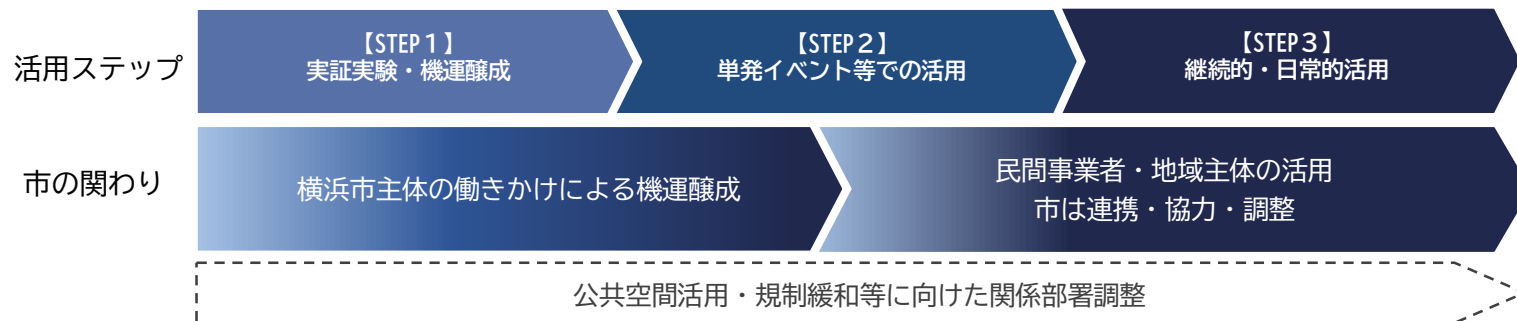
3 今後の取組の方向性

「事業者等と対話する際の市の考え」をもとに、事業者と対話を重ねながら関内駅周辺のエリア価値向上に向けた取組を検討していきます。まずは関内地区の玄関口である関内駅前街区（3街区）を中心に対話を進め核となる連携体制を構築していきます。

事業者との対話にあたっては、まずは公共空間を活用したにぎわい創出の取組からスタートし、それらを継続的・日常的に実施できる体制・仕組みづくりについて検討を進めていきます。そこからエリア価値向上に資するマネジメント活動の在り方の検討につなげていきます。公共空間の活用においては、実践的取組を積み上げながら、事業者が主体的に取り組みやすい仕組みづくりを検討していきます。



まず市と事業者が連携して取り組めるところ（公共空間活用）から実践



3 今後の取組の方向性（直近の取組イメージ）

■公共空間を活用したにぎわい創出の取組について

関内駅前の歩行者専用道路となる空間やみなぶんの歩道拡幅部分等の公共空間を活用した取組を事業者とともに推進していきます。
取組にあたっては、周辺地域との連携を図りながら進めていきます。

<取組イメージ>

